

PFASと自衛隊基地 ~驚きの展開が!

◆これまでの経過

昨年8月のPFAS学習会がきっかけで発覚した、海上自衛隊下総航空基地のPFAS汚染。12月県議会の川口えみの質問を経て、千葉県はようやく周辺3市（鎌ヶ谷市、柏市、白井市）と連携して、水質調査に入ることになりました。

◆水質調査の驚くべき結果

今年3月から6月、県と3市は、金山落に繋がる水路や、基地周辺の民家の井戸の調査を開始。すると、基地の北東部に近い水路からは2,100ng/L、南東部の水路からは10倍の21,000ng/L、そして南東部の井戸からは、最大35,000ng/Lを検出。暫定指針値の700倍です！ そして7月29日、ついに県と3市は下総基地内に入ることができました。私たちは、これで基地が原因だと判明する、と期待しました。

ところが、4者は立ち入っただけで、「基地の機密保持のため、写真撮影もメモも許されなかった」と言うのです。県に、「外部への排水路は確認しなかったのか」と聞いても、「分からぬ」の一点張り。子どものお使い以下です。

◆9月県議会での急転直下

さて、9月県議会では、県の補正予算にPFAS関連が計上され、驚きました。

「PFOS及びPFOAに係る地下水汚染防止対策事業 1000万円」

PFASによる地下水汚染の拡大を防止するため、汚染源を解明する目的で市町村が実施する調査等に対し、お金を出す、と言う内容で、全国でも初めての予算措置。誉めるべきところですが、肝心の住民への健康被害を調べる血液検査には、ビター文出しません。すっきりしない心境で、10月4日の川口えみの環境常任委員会の準備を始めました。すると、前日の10月3日に、びっくり情報が知人から飛び込んできました。

編集後記

新たな水問題？学校のプール授業がなくなる？

佐倉市は今年度から全中学校でプール授業を廃止、小学校はスイミングスクールに委託する学校が増えています。プール授業廃止の背景には、プールの老朽化や教員の負担軽減などさまざまな理由があります。これは全国的な問題です。学校で水泳授業が開始した大きなきっかけは、1955年に起

9月27日、国会議員や地元の市議など数名が下総基地内に入ることができたが、その際、基地のトップから、「基地の北東部の排水路と、南東部の排水路は、それ以外の水路と繋がっている」との説明を受けたというのです。

これまでの県の説明と、全く違います。翌日、環境常任委員会で、川口えみがこの点を質すと、県はあっさりと認めたのです。

「はい、北東部の排水路が外部と繋がっているとの説明は受けました。南東部については分かりません」

常任委員会が終わったとたん、東京新聞の記者が、傍聴席の私のところにすっ飛んてきて、「言いましたよね。繋がっていると、言いましたよね」と興奮気味。「今まで僕らには、ずっと、分からないと言ってきたんですよ！」

県は自衛隊に忖度したのか、記憶喪失したのか？ともかく、翌日の東京新聞の千葉版に、川口えみの名前とともに、この件が掲載されました。

◆今後の取り組み

10月10日、「8月に行った鎌ヶ谷市の井戸水検査で、42,000ng/Lが検出された」と報道されました。暫定指針値の840倍。国内でも最高レベルです。場所はやはり下総基地の南東部。発生元はほぼ確定したですから、今後は住民の健康調査に全力を注ぐべきと声をあげていきます。

大野博美



WATER & THE YANBA

vol. 39

CONTENTS

- 線状降水帯もPFASも大問題 武笠紀子
- まさのあつこさん講演会報告 大野博美
- 嶋津暉之さんの水問題への志をつなげたい 武笠紀子
- 八ッ場ダム現地の今 渡辺洋子
- PFASと自衛隊基地～驚きの展開が！～ 大野博美
- 編集後記 松島こずえ

編集：猪俣悦子

水問題と八ッ場ダムを考える千葉の会

代表：武笠紀子・大野博美

住所：〒270-0007 松戸市中金杉4-71-2

TEL：090-9365-9608 (武笠)

WEB：「水問題と八ッ場ダムを考える千葉の会」
で検索してください。

2024年11月1日発行

線状降水帯もPFASも大問題

今年の夏の異常な暑さ、巨大化する台風、次々発生する線状降水帯に『気候危機』を実感しました。時間100ミリ近い豪雨では、側溝や下水管での排水が間に合わないための内水氾濫や中小河川による洪水が発生し、崖崩れも起る等、能登半島他の多くの地域に被害をもたらしました。これはダムでは防げない水害です。気候変動の時代に、流域治水をさらに進めた新たな治水対策が必要になってきたと感じます。

本年のオンライン総会では、全ての議案をご承認いただきありがとうございました。お寄せいただいたご意見では、PFAS(有機フッ素化合物)問題への関心が高く、千葉県内でも次々と地下水・河川水のPFAS汚染が表面化しています。自然界で分解されず永遠の化学物質と言われるPFASです。命と健康を脅かす問題ですので、しっかりと取り組んでいきます。

(共同代表 武笠紀子)

まさのあつこさん講演会報告

4月11日、ジャーナリストまさのあつこさんのオンライン学習会「流域治水にダムは必要か？」を開催。まさのさんは、八ッ場ダム建設反対運動のときから私たちと一緒にしてきました。ダムに関しては深い識見があり、今回の講演では、肘川、球磨川、石木川など、全国で問題となっているダムと洪水の関係性について分かりやすくお話を頂きました。要約すると次の2点です。①国が進める「流域治水」にはダムも含まれているので、本来の「流す、溜める、とどめる、備える」という「流域治水」ではない。②気候危機の今、ダム治水では対応できず、ダムと堤防があれば安心という「安全神話」は破綻している。以上、まさのさんからの「学び」を今後の会の活動に活かしていきます。（大野）



●会費納入のお願い

*会計年度は1月から12月末まで

(一口 1000円/年)

会費振込先：00120-5-426489

嶋津暉之さんの水問題への志をつなげたい



武笠紀子

前回の通信でお知らせしましたが、『ハッ場ダム住民訴訟』『利根川流域市民委員会』『ハッ場あしたの会』等で活動をともにしてきた嶋津暉之さんが、今年の2月に逝去されました。当会では、心よりご冥福をお祈りするとともに、嶋津さんの遺された資料等を参考にさせていただき、水問題とハッ場ダムについて活動を続けていきたいと思います。

一都五県のハッ場ダム住民訴訟の支援

ハッ場ダム建設に参画していた一都五県(東京、神奈川、千葉、埼玉、茨城、栃木、群馬)の市民が、「ハッ場ダムへの事業費の支出は違法である」として、2004年、一斉に住民監査請求を行い、次いで2005年に提訴しました。一都五県の地方裁判所、控訴して東京高等裁判所、上告して最高裁判所まで、一都五県の団体が「ハッ場ダムをストップさせる市民連絡会」を結成し協力して、ハッ場ダムがムダなダムであることを裁判で訴え続けました。私たちは「ハッ場ダムをストップさせる千葉の会」を立ち上げて訴訟を行いました。

嶋津さんは、水問題の専門家として国や自治体のデータ入手。詳細な分析をし、現実の水需要と計画のズレを証明する資料を作成して、一都五県の全ての裁判に関わって、千葉の会でも証人として等、数々のご支援をいただきました。

ハッ場ダム『緊急放流』の怖れを証明

住民訴訟は、残念ながら一都五県全ての訴えが退けられ、2020年3月にハッ場ダムは完成てしまいました。



「水問題とハッ場ダムを考える千葉の会」主催の水問題学習会にて 2018.12.24



その前年2019年の台風19号により、関東・東北13都県に大雨を降らせ、各地で河川の氾濫が起きましたが、幸い利根川流域での氾濫はありませんでした。この時、ハッ場ダムは試験湛水を始めたところでしたが、時の国交大臣他が「ハッ場ダムが利根川の氾濫という危機的な状況を救ってくれた」と発言し、ハッ場ダム建設の正当性を協調しました。それに対して、国の資料に基づく計算を行い、ハッ場ダムが正規に湛水していたら、容量をオーバーしていく「緊急放流」により下流域に被害が出たかもしれないことを証明して発表、「ハッ場ダムありがとう説」を完全否定したのが嶋津さんでした。

全国のダム問題、水問題を支援

2015年9月の『関東・東北豪雨』では、鬼怒川が決壊し、常総市で大水害が発生しましたが、国が堤防の管理を怠ったとして、損害賠償を求めて住民が提訴。第一審水戸地裁で一部勝訴の判決が出たのは画期的なことです。この訴訟の先頭に立っていたのも嶋津さんでした。

この他にも「水源開発問題全国連絡会」(水源連)の共同代表として、全国のダム問題・水問題を支援のため、かけ回られました。水源連のホームページ、または『水問題原論(北斗出版)』『ハッ場ダム～過去・現在・そして未来(岩波書店)』でご覧ください。



八ッ場ダム 現地の今

渡辺洋子(八ッ場あしたの会)



ダム湖



湖(みず)の駅丸岩と水陸両用バス

八ッ場ダムが運用を開始してから4年あまりがたちました。

ダム湖周辺には八ッ場ダム事業によってつくられた「地域振興施設」がダム完成前後に次々とオープン。この間、コロナ禍による観光客減少にみまわれ、船出は必ずしもスムーズではありませんでした。

これらの地域振興施設は長野原町が所有していますが、指定管理制度によって地元の民間業者が運営しており、赤字は運営事業者がみずから補填する仕組みです。八ッ場ダムの脇を通る国道は、年間300万人を超える入込客数を誇る草津温泉への通り道ですが、「地域振興施設」の中には集客に苦労しているところも…。

主な施設の昨年度のおおまかなデータは、下表の通りです。

これらの施設がテーマパークのような華やかさであるのに対して、ダムができる前は観光の中心であった川原湯温泉は、ダム湖畔の代替地へ移転したものの閑散としています。交通量の多い国道は、ダム湖を挟んで川原湯の対岸にあり、国道と川原湯を結ぶ「命の橋」と謳われた湖面橋・八ッ場大橋も、人影はまばらです。

それでも、秋には周辺の山々の紅葉が、春には山野草が地続きだった水没地の自然を思い出させてくれます。川原湯のシンボルともいえるカザグルマ(イングリッシュガーデンを彩るクレマチスの日本原産種)が無事に代替地に根づいたことは、数少ない朗報の一つです。5月になると紫と白の大輪が咲き誇ります。カザグルマの保全には、千葉県の園芸専門家も「ぜひ残してほしい」と群馬県の愛好家に望みを託したとか。

機会があれば、ぜひ現地に足を運んでみてください。

★秋の現地見学会★

11月9日(土) 10時

*詳細は八ッ場あしたの会ホームページの「イベントのお知らせ」をご覧ください。
問い合わせ: 渡辺(携帯/090-4612-7073)

施設名	運営と内容	入込数	純利益
八ッ場茶屋	ダム堤の上にある土産屋&食堂(ラーメン、ダムカレー)	約6万5千人	約400万円
川原湯温泉あそびの基地NOA	川原湯温泉旅館主らがキャンプ場、水上アクティビティ、クラフトビール醸造所、NPO法人などのテナント収入で運営	約9840人	約45万円
湖の駅丸岩、屋内運動場	横壁地区の住民による株式会社が運営	2万8838人	売上: 1989万円 赤字額: 962万円
道の駅八ッ場ふるさと館	林地区の住民による株式会社方式。食堂、直売所など	95万8830人	売上: 約5億4600万円 純利益: 約1150万円